

研究・調査報告書

報告書番号	担当
103	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Relation of alcohol use and smoking to glucose tolerance status in Japanese men. 日本人男性における飲酒と喫煙の耐糖能に及ぼす影響	
執筆者	
Sakai Y, Yamaji T, Tabata S, Ogawa S, Yamaguchi K, Mineshita M, Mizoue T, Kono S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Res Clin Pract 2006; 73(1): 83-8.	
キーワード	
アルコール、喫煙、耐糖能異常、横断研究、日本人男性	
要 旨	
<p>背景</p> <p>飲酒と糖尿病や耐糖能異常との関連については一定の見解が得られていない。適量飲酒は糖尿病の発症を予防するという考え方がある反面、飲酒は糖尿病の危険因子とする報告もある。一方、喫煙は糖尿病の危険因子とされている。</p> <p>対象と方法</p> <p>46～59歳の自衛隊員の男性 3038人を対象として、飲酒、喫煙と耐糖能の関連を検討する断面研究を実施した。耐糖能は75g糖負荷試験で判定した。対象者はWHOの基準に基づいて、正常、impaired fasting glucose (IFG)、impaired glucose tolerance (IGT)、2型糖尿病に分類された。飲酒は、非飲酒、禁酒、現在飲酒 (<30、30-59、60≤, エタノール・グラム/日)、喫煙は非喫煙、禁煙、現在喫煙 (<15、15-24、25≤, 本/日) のそれぞれ5群に分けて、各耐糖能異常の指標との関連を検討した。</p> <p>結果</p> <p>飲酒は、IFG、IGT、2型糖尿病のそれぞれと有意な正の関連を示した。いずれかの病態を持つもののオッズ比は(検査した病院、階級、家族歴、BMI、余暇時間の身体活動量、喫煙を調整)、禁酒、30グラム未満、30-59グラム、60グラム以上でそれぞれ、1.56、1.78、1.94、2.25であった(非飲酒を1とした場合、禁酒以外は有意差あり)。一方、喫煙と耐糖能の間に有意な関連は認めなかった。</p> <p>結論</p> <p>飲酒は、いろいろなレベルの耐糖能を悪化させる危険因子の可能性がある。一方、この集団では喫煙と耐糖能は関連を示さなかった。</p>	